

こども発達支援センターさのかりん 児童発達支援プログラム

営業時間	グループ教室	親子教室・個別教室	送迎
9時～18時	10時～13時	営業時間内で 日時を定める	なし
法人理念	共生と地域支援		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の「共生」とは時代と共にその意味を絶えず変化させている。「共に生きる」だけでなく「協力して生きる」ことも意味している。 ・職員は支援をとおして「共に学び、考え、相談し、行動する」ことができる人材育成、人間成長を醸成する。 ・法人の運営方針である「ライフステージの変化に応じたトータルサポート支援」を、顔と顔の見えるつながりのある支援を実践していく。 ・特に園、学校卒業時は、発達特性に応じた合理的配慮の方法を具体的に紡いでいくことで、こどものウェルビーイングを高めていく。 ・こどもの移行先での適応を支援するため、発達段階に応じたライフスキルやソーシャルスキル、ストレスマネジメント、インターンシップ等を実施する。 ・職員はそれぞれの専門性を発揮し、福祉、教育、保健、医療との連携を積極的におこない、その知見を利用するこどもと保護者、職員に還元し、地域に必要とされる人材を目指していく。 ・保護者には、福祉や年金などの制度や仕組み、特性理解、かかり方、キャリア支援について、講座をとおして学び「保護者の育ち」を援助していく。 ・私たちは公益性の高い社会福祉法人の特性を理解し、社会の一部であることを意識し、常に地域課題（ニーズ）を把握し、制度にないことにも積極的に取り組み、必要なサービスを創造し行政や政策に提言していく。 ・5領域はそれぞれが独立しているものではなく、相互に関連して重なりあっている点に留意する。5領域を支援する際には、「自立支援と日常生活の充実のための活動」・「体験的な活動や遊び」・「地域交流の機会の提供」・「こどもが主体的参画できる機会の提供」の4つの基本活動を複数組み合わせる支援を行っていく。 		

支援メニュー・内容				
区分	I	II	III	
教室名	親子教室	グループ教室(幼児) 振替教室	個別教室 (幼児または親子)	
発達支援	教室の目的 ※各教室で5領域に連動した支援をおこなう	【親子教室】 ・支援メニューを親子体験をとおして学ぶ。 ・親子教室終了後には、支援メニューの中から、自身で希望を選択できるよう援助する。	【グループ教室】 ・集団生活において必要になるスキルを少数からスモールステップで学ぶ。友だちとの横の関係を学ぶ。 【振替教室】 ・病気や園行事で欠席した児童を対象にした教室をおこない、学習を定着を図る。	【幼児】 ・専門職が個別に支援する。個別にできたことをグループや自宅でもできるように支援する。 ・こころの発達の相談(心理士(師)) ・ことばとやりとりの教室(言語聴覚士) ・感覚と運動の教室(作業療法士) ・音楽教室(音楽療法) ・個別支援相談(担任) ・栄養相談(栄養士)
	(5領域) ① 健康・生活	日常生活動作(食事・着脱・排泄)、生活習慣、発達段階、認知や感覚刺激の特性や違いを理解して支援をおこない、子どもが安心して健康な生活を過ごすことができるよう援助する。 ○健康状態の維持・改善 ○生活習慣や生活リズムの形成 ○基本的な生活スキルの獲得 ○生活におけるマネジメントスキルの育成 *支援の例 ・定期的な心身の把握(気分や情緒的な変化の把握) ・生活リズムの安定(定期的な通所、睡眠、食事の状態の把握) ・構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援 *視覚的に分かりやすい表示、余分な掲示物を減らす工夫をする。		
	② 運動・感覚	遊びを通じて、上肢・下肢の運動・動作の獲得、協調運動、目と手の協応動作の発達、習得によって、日常生活に必要な動作の基本を支援する。 ○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ○保有する感覚の活用 ○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ○感覚の特性への対応 ○身体の移動能力の向上 *支援の例 ・ゲーム、音楽に合わせたストレッチ、体操、軽い運動、バランスボール等		

<p>③ 認知・行動</p>	<p>物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成、数量、形の大きさ、重さ、色の違いなど認知の発達を支援する。こどもの認知特性を踏まえ、情報を適切に処理できるよう、認知の偏り、情報処理の手順や方法など個々の特性に配慮することで、得意な感覚を十分に活用し行動できるよう援助する。</p> <p>○認知の特性についての理解と対応 ○行動障害への予防及び対応等 ○対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p> <p>*支援の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気、気温、日付の把握と確認による感覚・数の認知形成 ・活動を示すタイムテーブルの確認、時間の認知形成 ・粘土などによる物質の変化と感覚の認知形成 ・ブロック遊びによる空間把握の認知形成 ・小集団でのゲームでの適切な行動形成、認知の偏りの配慮 ・感覚、認知の偏りに対するリフレーミング ・季節の変化への興味などの感性形成のための屋外活動
<p>④ 言語 コミュニケーション</p>	<p>ことばの発達・獲得の成り立ちを学び、味覚や触覚の過敏、嚥下、咀嚼、体験、模倣（共同注意）、ジェスチャー、絵カードを含めたコミュニケーションについて学ぶ</p> <p>○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出 ○人との相互作用によるコミュニケーション ○コミュニケーション手段の選択と活用 ○状況に応じたコミュニケーション ○読み書き能力向上</p> <p>*支援の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじまりの会、終わりの会で今日の気分・気持ち・振り返りなどをプレゼンテーションして言語表出・受容 ・個別または小集団での発達段階や特性に応じた読み書き ・ルールなど絵や絵カードを使って視覚化
<p>⑤ 人間関係 社会性</p>	<p>アタッチメント（愛着形成）、模倣行動（共同注意）、遊び（感覚・象徴遊び）、ひとり遊びから協同遊びへ、自己理解と感情コントロールへと進めていく。初めは親子教室から、個別教室、小グループをとおして、所属する集団への適応を支援する。</p> <p>○情緒の安定 ○他者との関わり(人間関係)の形成 ○遊びを通じた社会性の発達 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加</p> <p>*支援の例</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメント形成（面談で自尊心を高める・認める） ・見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びの組み合わせ ・一人遊び、並行遊び、連合的な遊びの組み合わせ ・役割分担のある遊びなどの協同遊び ・ルールの理解が必要な遊びや集団活動 ・イベントなどを通じた地域との交流 				
5領域の発達支援をおこなう職員	<p>領域ごとに児童指導員・保育士・言語聴覚士・作業療法士・心理士（師）・栄養士・社会福祉士・介護福祉士等の専門職が個別支援計画および特別支援計画に基づいて連携、連動した支援をおこない、日々の活動を通じて学習、獲得できたことを定着していく。</p>				
家族支援	<p>5領域の支援をおこなうにあたり、ご家族に子育て不安、障がい受容が不安定である場合、短期間で変化するライフサイクルの中で、園での集団生活の適応や就学前後の保護者の養育に支障がある場合で、心理学的援助が必要な場合は、その都度、または定期的にカウンセリングをおこなうことができる。また、環境調整や地域の社会資源へのアクセスなどのコンサルテーションについては、社会福祉士や児童指導員が援助をおこなう。また、栄養面については、栄養士が、医療面については系列施設の看護師のサポートを受ける。</p> <p>○アタッチメント(愛着)の安定 ○発達特性に配慮した家庭環境の整備 ○家族(きょうだいを含む)からの相談に対する適切な援助</p>				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ学習</th> <th>個別相談</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ペアレント・サポート】</p> <p>・子育て応援講座では、子どもの発達特性に理解を深め、必要な技術を学ぶ。また、福祉サービスや就学に向けて必要になる知識やスキルを学ぶ。</p> <p>・ペアプロ、ペアトレだけでなく、ストレスマネジメントや医療、保健、保育、教育など必要なスキルを包含して学ぶ。</p> </td> <td> <p>【こころと発達の相談】</p> <p>【個別支援相談】</p> <p>・心理士（師）と担任の児童指導員がおこなう相談がある。</p> <p>・自宅での困り感や努力に寄り添い、支援の成功事例を具体的に伝え、保護者が成功体験できるよう援助する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	グループ学習	個別相談	<p>【ペアレント・サポート】</p> <p>・子育て応援講座では、子どもの発達特性に理解を深め、必要な技術を学ぶ。また、福祉サービスや就学に向けて必要になる知識やスキルを学ぶ。</p> <p>・ペアプロ、ペアトレだけでなく、ストレスマネジメントや医療、保健、保育、教育など必要なスキルを包含して学ぶ。</p>	<p>【こころと発達の相談】</p> <p>【個別支援相談】</p> <p>・心理士（師）と担任の児童指導員がおこなう相談がある。</p> <p>・自宅での困り感や努力に寄り添い、支援の成功事例を具体的に伝え、保護者が成功体験できるよう援助する。</p>
	グループ学習	個別相談			
<p>【ペアレント・サポート】</p> <p>・子育て応援講座では、子どもの発達特性に理解を深め、必要な技術を学ぶ。また、福祉サービスや就学に向けて必要になる知識やスキルを学ぶ。</p> <p>・ペアプロ、ペアトレだけでなく、ストレスマネジメントや医療、保健、保育、教育など必要なスキルを包含して学ぶ。</p>	<p>【こころと発達の相談】</p> <p>【個別支援相談】</p> <p>・心理士（師）と担任の児童指導員がおこなう相談がある。</p> <p>・自宅での困り感や努力に寄り添い、支援の成功事例を具体的に伝え、保護者が成功体験できるよう援助する。</p>				
<p>・ストレスマネジメントは、保護者が心身ともに健康で生活し、生活上で生じるストレスを自身でコントロールしたきり、相談によって解消できるように支援する。保護者が健康であることは、そこで育つ子どものすこやかな成功を支えることにつながる。</p>					

地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所・学校・医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組 ・保育所等訪問支援によるインクルーシブの推進 ・佐野市指定中核拠点型児童発達支援センターとしての地域支援 ・栃木県発達支援マネージャー事業として、県南・両毛地区の支援体制づくりを進める ・栃木県発達障害者支援アドバイザーとして支援者の質の向上
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園、学校、放課後児童クラブ等への移行支援 ・ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備 ・併行利用先との連携
職員の質の向上	<p>地域社会で必要とされる職員は、職場でも必要とされる職員であると私たちは考えている。佐野市との委託契約や県南地区の自治体との連携の中で、乳幼児健診や健診事後教室で子どもの発達や保護者の不安感、保健師をとおして母子保健の基本を学び、子育て支援から児童発達支援でおこなうことについて親子のニーズから実践的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業所内研修・外部研修の派遣など ○療育・制度、5領域等にかかる読み合わせ等
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ○6月/とちのみ祭 ○7～8月/夏祭り・社会体験教室 ○10月/とちのみ会運動会 ○ペアレント・サポート年10回程度 ○11月・12月・2月/作品展 ○フロム浅沼「浅市」年2回

作成日:令和7年2月25日